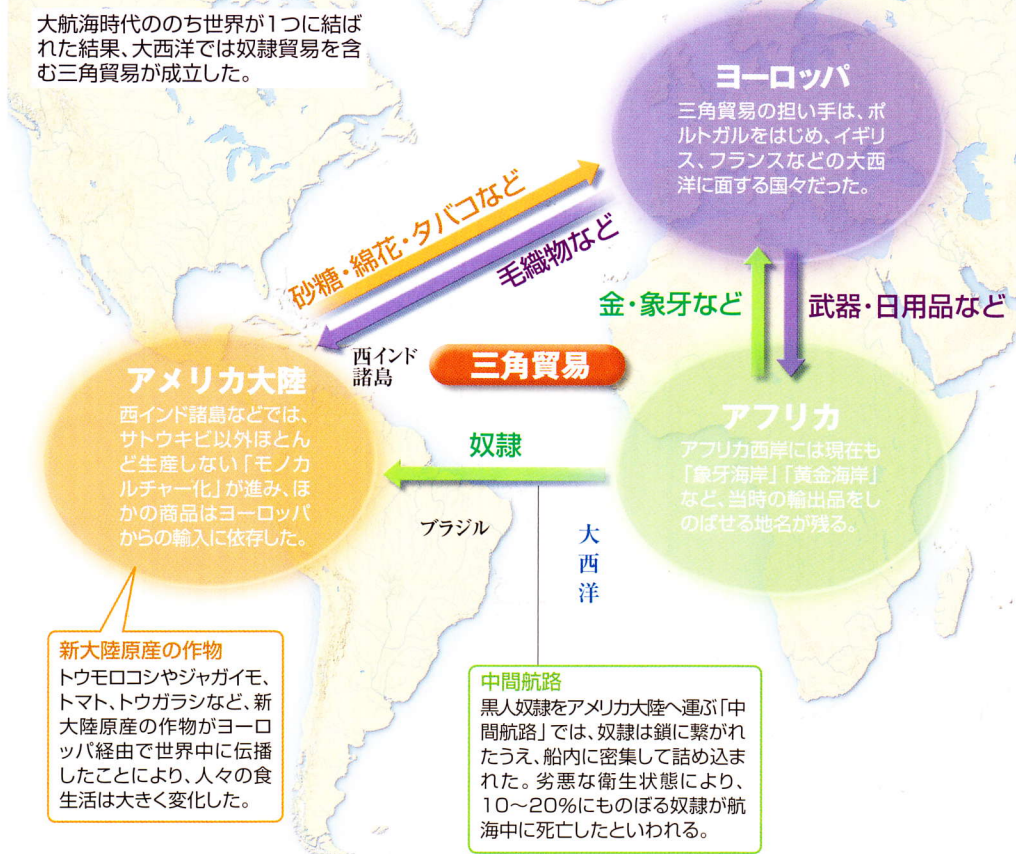


# 大西洋を舞台に 三角貿易が成立



大航海時代以降、大西洋を挟んで行われた三角貿易により、イギリスなどには富がもたらされ、アフリカ社会は大打撃を受けた。

## 大西洋の三角貿易



### 産業革命の資金源となった 大西洋の三角貿易

ポルトガルが領有したブラジルでは、16世紀から砂糖の原料となるサトウキビの栽培がさかんになった。17~18世紀になると、ヨーロッパで茶やコーヒーが普及し、それにもない砂糖の需要も急増したため、西インド諸島でもサトウキビのプランテーションが次々に開発され、酷使や疫病で激減した先住民に代わる労働力として、アフリカの黒人奴隷が使われた。

18世紀に入ると、イギリスのリヴァプールやフランスのボルドーなどから武器や日用品などがアフリカに輸出され、そこで買いつけられた黒人奴隷がカリブ海やアメリカ大陸に運ばれた。そして、その代金で購入された砂糖や綿花、タバコなどの国際商品がヨーロッパに送られるという、大西洋を舞台とした三角貿易が活発に展開されるようになった。

この三角貿易はイギリスやフランスなどに巨万の富をもたらし、その後の産業革命（P98参照）の資本となった。

### 奴隷貿易によって 荒廃したアフリカ

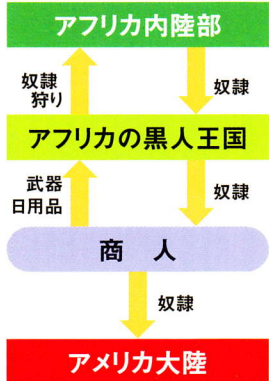
一方、サハラ砂漠以南のアフリカでは、ヨーロッパからやってきた奴隷商人や、奴隷貿易を経済的基盤とする黒人王国P

161参照)が行った奴隷狩りによって、成人男子を中心に労働人口が減少し、生産活動の停滞や社会の荒廃を招いた。

西アフリカでは、ポルトガルと結んだ黒人王国が奴隷貿易で栄えたほか、東アフリカでも内陸部に成立したブガンダ王国が奴隷貿易を行った。こうした奴隷貿易は18世紀後半に最盛期を迎え、19世紀まで続いた。アフリカから奴隷としてアメリカ大陸に運ばれた人の総数は、少なくとも1000万人以上にのぼると推定され、アフリカ社会の健全な発展を妨げるとともに、今日もなお続く低開発の状況を生み出す一因となった。

### 奴隷貿易のしくみ

ヨーロッパの商人は、西アフリカに成立したベニンなどの黒人王国に、綿製品などの日用品のほか、銃などの武器を輸出した。黒人王国はこの武器を使って奴隷狩りを行い、内陸の黒人を捕らえ、奴隷として商人に売り渡したのである。奴隷貿易の中心となったのは、現在のシエラレオネ周辺からアンゴラにいたるアフリカ西岸であり、現在のベナン共和国の海岸部一帯は「奴隷海岸」ともよばれた。



Key Word

### アフリカの黒人王国

アフリカ最古の黒人王国として知られるのは、前10世紀ごろエジプトの南方に誕生したクシュ王国である。クシュは4世紀にエチオピアの前身とされるアクスム王国に滅ぼされた。西アフリカでは、8~9世紀ごろ栄えたガーナ王国や13~15世紀に栄えたマリ王国、マリ王国を倒したソンガイ王国などが知られている。